

令和2年度 ブロック研修会報告

名寄市母子会

大場 恵子

道北

開催日 令和2年10月25日
場所 旭川ときわ市民ホール
参加数 16名

本年度の当番地は名寄市でしたが、天塩・稚内からの交通の便を考慮して旭川市での開催とし、連日のコロナ報道の中で、三密を避け代表者のみの参加としました。

小雨降る肌寒い中、外部からの来賓挨拶はありませんが、今までの母子会の為に尽力下さった渡部タミ様の席を設け、在りし日の姿を偲び全員で黙とうを捧げました。感謝を申し上げると共に更に母子会発展の為に頑張っていくとの思いを重ねた事は、その後の演題「母



最前列に用意された前理事長渡部タミさんの席

子会の在り方と現状」についての質疑応答形式の講演の中に表れました。明年1単位会が減となる報告を受け、驚きと一抹の寂しさもありました。一方、今の単位会は今後の会の解散、休会という事態に傾くことのない様自主努力をしながら、会員同士の深い絆で継続し続けるとの力強い発言で鼓舞する会長の思いを聞き、形はそれぞれ違っても自分たちの会は自分たちで造り上げ、出された課題に挑戦するしかないとの思いを改めて考えさせられました。限られた参加人数だからこそ、本音で話し合え、単位会同士の絆の大切さを再確認した内容となりました。

最後に、次回開催地の富良野市での再会は、コロナが収束して盛大に行われることを願い、多くの会員の参加で思い出となる研修会になることを祈念しています。



コロナ禍、マスク姿で熱心に討議を重ねる参加者

道南

伊達はまなす会

井樫 和子

開催日 令和2年11月8日
場所 登別市労働福祉センター
参加数 23名

今回新型コロナウイルス感染症拡大の中での研修会となりましたので、三密にならない様気をつけ、マスクをし、換気をし、こんな中でも登別アシリの会代表の芳賀美津枝様と助手の坂口京子様のお2人をお迎えして、アイヌ文様刺繍の伝承文化のお話と刺繍を教えてくださいました。

江戸時代に疫病が流行し大勢の人が亡くなりました。この事がきっかけで刺繍をするようになり、疫病退散という魔よけの願いが込められています。そんなマスクを菅総理が官房長官の時に使ってくれた事から話題となり沢山の注文が入っていると、特に大阪の方



個別に丁寧なご指導

に人気あるそうです。そんなマスク刺繍とても楽しみにしていました。とても丁寧

に教えていただきアツという間の時間でした。

アシリの会芳賀様はアイヌ文化をもっと大勢の方に意味を理解してほしいと、小さい時はアイヌだということを感じてきたそうです。

今コロナの大変な時だから、早くおさまり、普通の生活に戻れます様にお願い、一針一針刺繍させてもらいました。貴重な体験が出来ました。感謝しています。ありがとうございます。



アシリの会代表芳賀美津枝さん、助手の坂口京子さんを囲んで

令和2年度共同募金助成金は、4ブロック研修会、広報紙発行に充当させていただきました。ご報告し、お礼を申し上げます。